おふたいむ

お酒がとりもつ地域のコンダクター

京都府衣料国民健康保険組合副理事長

中井敏男 氏

反物を絵柄のない無地に染める浸染工場を経営する5代目である。色鮮やかな紅染めにも成功し、宮内庁に納入されるなどその卓越した技能は高い評価を受け、3年前には「現代の名工」に選ばれた。また平成27年春の褒章で黄綬褒章を受章した。文久3（1863）年の創業で浸染業界では最古参だという。

新旧住民の交流に心砕く

「（下京区の）格致学区は醒ヶ井通りに面するなど地下水が豊富で、昔から染め物の街として発展してきました」。ところが、着物離れなどで廃業する店も多く、跡地にはマンションが多く建つようになった。「以前は職住近接でみんな顔見知りだったんです。人口が増えたのはうれしいんですが、顔の見えない町になりつつあったんです」と話す。

衣料国保の副理事長を約10年務める一方、PTAや体育振興会、自治連合会の各会長など数多くの役職に就いてきたのは地元への愛着と誇りだった。そして心を砕いてきたのが新旧住民のつながりだ。町内にマンションができた時は、屋上で大文字を見せてもらいながら「ウエルカムパーティー」を開き、お互いの心を交流させるよう努めてきた。

「そんな時に役に立ったのが『飲みュニケーション』でした。お酒は大好きで、昔は町内で私の右にでるものはいないと言われてました」と大きな声で笑う。地元でスキー同好会の会長も20年ほどしているが「スキー場は、温泉とうまい酒が飲める所がセットになっていなくてはだめなんです」。

カレー、梅酒にファン多く

「人を呼んで、にぎやかなことをするのが好きなんでしょうな」。お酒を飲みながら作ったカレーやカツオのたたきは、近くに住む孫たちや町内の人におすそわけし大人気だという。特に父親の代から引き継いできた梅酒づくりは町内に数多くのファンがおり、「家の床下は梅酒の瓶でびっしりです」と、また笑いながら秘密を教えてくれた。

今も自治連合会の顧問である。「一人では何にもできません。おかげさんで仲間内がたくさんいてくれますので、みんなに相談して知恵をかしてもらうんです。まあ私は地域のまとめ役、ええ恰好言わせてもらうとコンダクターみたいなもんです」。格致学区の夏祭りや地蔵盆はマンション住民も多く加わり、その賑わいとまとまりは京都市内でも有名だ。